

年 組 名前:

問1

少子化対策として、「N分N乗方式」の導入は、どのようなメリットがあると、考えられていますか。

.....  
.....

問2

「N分N乗方式」は、どこの国で、いつ導入され、どのような成果がありましたか。

・国名: .....  
・いつ: .....  
・成果: .....

問3

この方式を導入すると、どのような課題があると指摘していますか。

.....  
.....  
.....

問4

あなたは、少子化対策について、なにが必要であると考えますか。

.....  
.....  
.....  
.....

## 子どもも多い世帯税負担軽く 「N分N乗」注目集まる

少子化対策の目玉として、子どもが多い世帯ほど所得税の負担が軽くなる「N分N乗方式」の導入を求める声が広がっている。フランスが第2次世界大戦後に導入し、人口増加に貢献したとされる仕組みだ。

日本でも導入の是非が検討されたが、個人から世帯への課税単位の切り替えは難しく実現していない。岸田文雄首相は、個人から世帯への少子化対策を実施するつもりなら、税制を抜本的に改める改革が必要だとの声が高まっている。

フランスのN分N乗方式では、まず1世帯の所得を合算し、これを子どもも含む「人数(N)」で割り、非課税枠を引いた上で税率を掛ける。その後、再びNを掛けて納税額を決める仕組みだ。2人目の子どもまでは0.5人と数える。

夫婦と子ども1人の家族のNは2.5。政府の資料に沿ってフランスの税率で計算すると、世帯合計所得が700万円の場合、納税額は40万円程度。子どもが2人になるとNは3となり、税額は33万円程度まで減る。3人目の子どもからは1人と数えるため、Nが大きくなり、納税額はさらに減る。

N分N乗方式が子どもを増やす動機付けになる可能性があるが、課題もある。世帯の所得が同じ場合、累進税率の関係で共働きよりも片働き世帯に有利に働く。鈴木俊一財務相は「日本では納税者全体の約6割が最低税率となっており、恩恵は限定的だ。高額所得者に税制上、大きな利益を与える」と慎重姿勢を見せている。

相や政府も慎重な立ち位置だ。

自民党の茂木敏充幹事長は1月下旬の衆院本会議の代表質問で、家族が増えるほど税金が減るフランスの方式を「画期的な税制」と紹介。維新の馬場伸幸代表も導入を主張した。首相が「異次元」

フランスのN分N乗方式では、まず1世帯の所得を合算し、これを子どもも含む「人数(N)」で割り、非課税枠を引いた上で税率を掛ける。その後、再びNを掛けて納税額を決める仕組みだ。2人目の子どもまでは0.5人と数える。

夫婦と子ども1人の家族のNは2.5。政府の資料に沿ってフランスの税率で計算すると、世帯合計所得が700万円の場合、納税額は40万円程度。子どもが2人になるとNは3となり、税額は33万円程度まで減る。3人目の子どもからは1人と数えるため、Nが大きくなり、納税額はさらに減る。

N分N乗方式が子どもを増やす動機付けになる可能性があるが、課題もある。世帯の所得が同じ場合、累進税率の関係で共働きよりも片働き世帯に有利に働く。鈴木俊一財務相は「日本では納税者全体の約6割が最低税率となっており、恩恵は限定的だ。高額所得者に税制上、大きな利益を与える」と慎重姿勢を見せている。

**「N分N乗方式」のイメージ**  
(夫婦 + 子ども2人の場合)  
※フランスの例、2022年1月時点

所得 夫婦で 700万円

$\div N (N=3)$

233万円

非課税枠

1人当たりの税額 11万円程度

$\times N (N=3)$

納税額 33万円程度

(2023年2月4日付 山梨日日新聞2面)